

セッション（政治経済学：理論と実証）

国際コメ備蓄による食料安全保障と市場安定化

空間均衡モデルによる計量分析

前田幸嗣（九州大学）

狩野秀之（九州大学）

発展途上国の食料安全保障を確保することを目指して、2 国間や多国間の食料援助スキームを補完し、一時的な不足等の状況に際して現物の融資を行おうという国際備蓄政策の実現が遠のいた感が強い。わが国が、政策の枠組みの検討を 2000 年 12 月に世界貿易機関（WTO）に提案してのち、世界規模での政策実現の足がかりとして中国、韓国およびアセアン諸国との連携の下で実施してきた東アジア緊急コメ備蓄パイロット・プロジェクトが、発動実績のないまま 2006 年にも終了される可能性が高いということが、その一因である。

しかし、発展途上諸国や世界食糧計画（WFP）の期待表明が示唆するように、国際備蓄政策が気象変動などの不測の事態や今後予想される貿易自由化の進展の下で果たすセーフティ・ネットとしての役割は、決して小さくはないものと思われる。本報告の課題は、国際備蓄政策を含む空間均衡モデルを新たに構築した上で、多国間貿易の政策シミュレーションを行い、貿易自由化の更なる進展など今後予想される経済環境下における国際コメ備蓄政策の有効性を、特に食料安全保障および市場安定化の観点から、計量的に検証することである。

分析の主な結果は次のとおりである。

国際コメ備蓄政策は、コメの国際市場をほとんど歪曲することなく、発展途上国の食料安全保障の確保とコメ市場の安定化に貢献する。

国際コメ備蓄政策は、発展途上国を支援する他の国のコメ需給の緩和とコメ市場の安定化にも同時に貢献する。

以上 2 つの貢献は、不慮の気象変動の局面だけでなく、貿易自由化の進展の局面においてより大きくなる。